令和7年度　第20回
訪問看護研究発表会報告

日時：令和8年2月28日（土）14時～16時
場所：ハートピア京都3階　大会議室

訪問看護ステーション 虹
協議会会長　西尾 希美重

開会の挨拶

京都橘大学松本教授には看護研究の進め方など本日の研究発表会についてご指導、ご助言賜り、ありがとうございました。
どうして看護研究をするのか、それは科学的根拠に基づいたケアを提供し看護の質を向上させて患者の回復に貢献するためとあります。毎日行うケアは何も考えずただやっているだけではなく、病状や環境などを考えて行っていると思います。本日のような発表の成果での科学的根拠を学び、看護の実践を振り返り、誰が看護しても質の高いケアを提供する、また業務改善につながるのではないかと思います。本日の仲間の研究を通してたくさんの学びを持ち帰ってもらい訪問看護ステーションの発展と訪問看護師が生き生きと京都府の皆様のために貢献できることを期待して開会の挨拶とします。

司会

訪問看護ステーションあっと
北村 里栄子

講評

京都橘大学　看護学部
松本 賢哉 教授

B地区
家族が看取りを実現するための看護師に求める要因とは
～死別後家族に対するインタビューを通して～

医療法人永原診療所
訪問看護ステーション まる　　平川　希実子

講評
いいか悪いかって表現しにくい。今回は８家族の方に聞くことができたのはかなりのコード数になったのではないか。この家族が看護師たちにどう求めているのかという要因がきれいにまとまっていた。家族数が多かったところはリッチな研究ができ、面白い結果だったと思う。

広報委員会感想
看取りをされる家族に対して看護師としてどう関わることが大事なのかを学ぶことができた。これからも意思決定支援の沿った看護を実施したい。

C地区
慢性心不全を併存する認知症高齢者の食行動変容への受容過程の検討

一般社団法人右京医師会
訪問看護右京医師会　　本村　茜

講評
対象者は慢性心不全を抱えた家族にインタビューしたと変更してほしい。なんで食行動が変わっていったにかというプロセスがきれいに出せていた。関係性が生まれてきてみんなで食事が食べられるようになったとか道筋をきれいに表すことができた。

広報委員会感想
バリデーション技法のより自分らしさを尊重することで、行動変容が獲得できた過程を学ぶことができた。

D地区
精神科認定看護師の視点から捉えた精神科訪問看護師の教育の現状と課題

株式会社PoNo
訪問看護ステーションKoKo　　井上　理子

講評
精神科訪問の質をどう高めるか、どう教育するかという訪問看護教育とか課題まで発表された。今後、精神の訪問看護師の教育はこれからの課題でもあるし、精神科は特に形として見えにくいところもあるのでいい問題提起をされたと思います。

広報委員会感想
精神訪問看護師の教育体制の整備について、経験の有無や経験値に応じた教育プログラムの構築が必要と感じた。研修内容や研修そのもののあり方を再考し精神障害の特性に応じた支援ができる人材育成を目指してもらいたい。

E地区
自ら支援を求めない介護者への情緒的支援の過程と効果
社会福祉法人　あじろぎ会
宇治病院訪問看護ステーション　　福井　めぐみ

講評
奥さんの状態とか、見ることによって受け入れが変わってきたとか、その足跡がきれいにでていた。難しい介護者への介入といったところがどう変わっていったのかまとめられていた。

広報委員会感想
自ら支援を求めない介護者へのタイミングやアプローチ方法について、訪問看護の利用につながる支援のあり方を学ぶことができた。

F地区
京都市内の小児訪問看護におけるレスパイトのための長時間訪問についての実態調査
医療法人財団はるたか会
訪問看護ステーション　あおぞら京都　　宗　皓

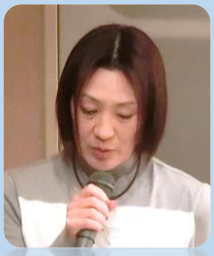
講評
とても面白い結果だし、量的な分析もされてよかった。このような研究がどんどんされて、小児の課題とか情報を集めていくと訪問看護ステーション協議会や学会などがまとめて政策経費を起こしていく。それを厚労省に提出すると予算化される。このような研究が発表されていくと変わっていくのではないかというところでは、いい問題提起の仕方をされたと思う。

広報委員会感想
訪問看護師、医療関係者がご家族からの依頼やニーズを的確に把握し、情報提供やサポート体制を強化するための施策を検討する必要があると感じた。

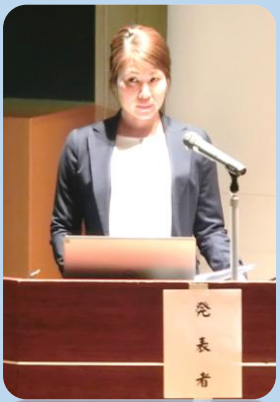
G地区
先天性心疾患の子供をもつ父親の疾病受容と家族機能変化についての一考察
医療法人　総心会
訪問看護ステーション「ふれあい」　　藤野　典子

講評
これから生まれてくる人を前向きに追うのではなく、生まれた後で障害が克服している後ろ向きの研究はなかなかうまく出ない。成功して安心した人は過去の記憶あいまいで研究しても欲しいものが出てこないかもと言っていた。でもインタビューの仕方がすごく良かったし、お父さんの喋る力がすごいなあってきれいに出ていた。

広報委員会感想
先天性心疾患を持つ父親としての葛藤や不安がよく表され、家族機能を維持するため行動が分かった。



研究発表・
質疑応答の
様子



全体のまとめ

環境を良くしていくためには研究をすすめていってほしい。研究を進めていって政策提言にもっていくのは量的なもの。質的な研究にはつながらないが量的な研究とかをどんどんやっていくとよくなっていく。
一番最初に研究の方法を発表した巨人の方の細胞の一つとして、続けていただけたらと思うし、順番が回ってこなかったらいいやっていうのではなく、研究をやりなさいという形でいろんなところで発表して頂ければと思います。

閉会の挨拶

本日は大変お忙しい中訪問看護研究発表会にご参加いただきありがとうございました。
１年間を通し、看護研究の取り組みにご支援くださった松本先生へ改めて感謝申し上げます。そして本日研究発表を終えられた発表者、共同研究者の皆様本当に１年間お疲れさまでした。本日発表された研究の成果を協議会会員、さらには会員以外の方々と共有し、共に学び合っていくことで、看護の質が向上し住み慣れた土地で誰もが安心して暮らしていくための看護実践へと発展してくことを期待します。以上をもちまして閉会の挨拶とさせていただきます。

綾部市立病院訪問看護
ステーション
研修委員長　石角 英子

研究発表者
&
松本教授

一般社団法人　京都府訪問看護ステーション協議会　広報委員会